

『臥龍梅』 蔵便り

平成二十五年五月



拝啓 いよいよ新緑の候となりました。今年のゴールデンウィークは如何お過ごしだったでしょうか。

先月の蔵便りでご案内したコラボイベント「**バレエと落語—お囃子付きで**」

についてご報告いたします。この珍しい会は、GW 後半戦真っ只中の 5/4 と 5/5、静岡市の繁華街にあるその名も呉服町ビル 6F、**バレエスタジオ ジャルダン デ アーツ**で開催されました。普段はバレエのレッスン場として使用されているフローリングの広い会場にお寺から借りてきた座布団が敷かれ、正面には檜の高座と金屏風が設えられました。開場とともに詰め掛けた約 80 名のお客様はバレエファンと落語ファンが半々のようです。

公演は、一部が月亭文都師匠とお弟子の月亭天使さん(女流落語家です)の落語、二部が 4 名の女性ダンサーによるオリジナルバレエ「祭囃子」、三部が文都師匠とお弟子の林家市楼さんの落語という三部構成です。落語からバレエへ、バレエから落語へと演目が変わるごとに高座と金屏風の撤去と再設置の作業があるため、それぞれ 15 分ほどの休憩がはさまれました。

1 回目の休憩時間が臥龍梅と蔵の紹介をするアピールタイム、2 回目がお楽しみの試飲タイムです。女性中心のバレエファンが試飲のグラスに手を伸ばしてくださるか心配でしたが、2 本ずつ用意した**開場十里香の袋吊**と**備前雄町の袋吊**の 720ml 壇、計 4 本の純米大吟醸酒は二日とも完売いたしました。普段口にする機会のない年配の女性のお客様たちに、日本酒ってこんなに美味しいものだったのと言って喜んで飲んでいただけなのは収穫でした。公演の内容はと言うと、さすが大名跡を襲名されただけあって文都師匠の落語はそんじょそらの落語とはものが違うというのが私の感想です。お弟子さんが裏方で三味線、笛、太鼓を奏でる上方落語一流のお囃子も新鮮でした。また、初めて 2,3 メートルの間近で見る女性ダンサーたちのバレエの迫力には圧倒されました。さて、公演が終了した後は有志が集まり落語家さん達を囲んでのご苦労さん会。皆さん、臥龍梅を飲んで大いに盛り上がりました。最後は恒例のじゃんけん大会で、私の着用していた臥龍梅の半被は文都師匠がなんと 1 回のじゃんけん勝ち取りました。これも何かのご縁です。師匠、上方でも臥龍梅の宣伝よろしく願いいたします。

今年の**第4回臥龍梅を愉しむ会**の開催日時が決まりました。**8/25(日)14:00** から京浜東北線大井町駅前の**大井町キュリアン**という会場で開きます。詳細は後日ご案内いたしますが、皆様是非とも予定しておいてください。



さて、今月は**備前雄町 50%精米の純米大吟醸無濾過原酒**に加え、その**袋吊雫酒(生酒)**を新たにご案内いたします。雄町ならではの味と香りをご堪能ください。ご承知のとおり袋吊雫酒は数に限りのある商品ですのでお早めにご注文願います。

晩春の候、皆様ますますお元気でお願いします。

平成 25 年 5 月 吉日

敬具

鈴木 克昌